

英語科におけるICTを活用したオンデマンド式言語材料導入

【内容】 オンデマンド形式で文法の導入を行うことにより、個々の学習のペースに合わせて繰り返し学習に取り組めるようにする。～個別最適化へ～

【事例紹介】

動画の作成

- 一眼レフカメラ、三脚、ピンマイク、ホワイトボードを使って、3年生で学ぶ全単元の言語材料を解説する授業の動画を作成する。
- 動画はすべて10分程度で視聴できるものにする。
- 画質は必要最低限に保ち、容量が大きくなりすぎないようにする。
- Googleクラスルームで共有する。

授業中の生徒の活動

- 授業中に自分の進度に合わせて、文法の動画を視聴する。
(生徒は自分の学習ペースに合わせて、動画を止めたり、再生速度を変えて視聴したりすることができる。)
- 動画の視聴後、文法プリント(各単元の新出言語材料を学習するためのプリント)に個々のペースで取り組む。
- 教師、ALTが机間指導を行い、生徒のつまずきに対応する。



【オンデマンドで学習するからできたこと】

- 授業中に、個々のペースで学習を進めることができる。
- 復習の頻度を高められる。
- 授業進度が早くなるため、より多くの時間を言語活動に割くことができる。
- 自宅でも繰り返し視聴することができる。



【生徒の感想】

- ・ 以前よりも授業のスピードが速くなり、自分のペースで進められるようになったと思います。そのおかげで他の事(復習やテスト勉強や教科書の読み取りなど)がたくさんできるようになったと思います。
- ・ 分からないことがあった時に、授業内で繰り返し学習できたり、自宅で見直したりできます。
- ・ 授業を休んだ時も進度が遅れないと思いました。また、何度も見返すことができるので、予習や復習に最適だと思いました。
- ・ 家でも分からなかったところの詳しい解説を聞くことができたので、家での宿題や学習の中でとても役に立ったと思います。

☆教育委員会指導主事より☆

新しい授業形態の提案です。従来、「一斉」で行っていた文法の知識習得の部分を、先生自作の動画を各自が視聴する形に置き換えています。報告によると、一斉の形態と比べて、掛かる時間が短縮できたそうです。また、学習者の視点から見た様々なメリットが紹介されていますが、その中には「主体的に学習に取り組む態度」の評価の基となる「粘り強さ」「自己調整力」につながるキーワードも挙げられています。授業での知識の習得を効率的に行えるだけでなく、自分の学びのスタイルを見直すことにも役立つかもしれません。